

開催地名	福井県福井市
開催日時	令和6年2月11日(日) 09:30～11:00
開催場所	福井市防災センター 2階研修室
語り部	草 貴子 (宮城県仙台市)
参加者	自主防災組織連絡協議会等の会長及び役員等、嶺北他市町の防災関係者 92名
開催経緯	本市は終戦直後の福井地震、九頭竜川堤防決壊をはじめ、福井豪雨や豪雪など様々な災害が発生した。しかし、福井地震の発生から70年以上、福井豪雨から20年が経ち、被災経験のある住民が減少していることから防災意識の希薄化や避難所運営のノウハウが課題となっている。今回の東日本大震災の語り部による講演で、地域の防災意識の高揚や避難所運営に関する知見を深めていきたい。
内容	<p>(1) 震災までの生活</p> <p>仙台市泉区は、人口21万3千人の政令都市仙台の副都心である。私の運営している町内会は平成20年度に設立し、メンバーは働き盛りの40代、単身赴任の家庭が多い中で、自然と女性が立ち上がって出来た組織である。役員9名は全員女性、集会所設立のために銀行ローンを組んだということは、仙台市初の異例の試みであった。完成した集会所は緊急時の避難場所として強く認識されると想定しオール電化の導入、トイレを二箇所に設置、また収納の高さを女性の腰の高さに合わせるなど、様々な工夫を凝らしながら、そして身の丈にあった町内会作りを目指した。</p> <p>(2) 震災時の状況と対応</p> <p>3月11日14時36分、近所の家電量販店で買い物の途中、立ってられない程の強い揺れがあり、ガラスが割れ天井が落ちる中、夢中で外に飛び出した。自宅に帰る途中に、集会所近くの公園に人だまりができていた。女性や子供を中心に、約100人が避難していた。避難者の大半は、町内会に入会していないマンションの住民であったが、全員受け入れることにした。避難者の中からリーダー、副リーダーを決めてもらい、町内会はサポートする形で運営に参加した。電気は2～3日、水道は3～4日、ガスは1ヶ月で復旧された。支援物資の引取で支援を受けたのは、12日13日の2日間だけであり、その後は各家庭からの物資で対応することとなった。</p> <p>平成25年に市名坂小学校区避難所運営委員会が発足した。地域の20の組織団体が構成され、私は初代事務局長として皆さんとともに世代や性別、社会情勢に合った訓練を実施している。</p>

例えば、避難所では「マナー5箇条」というルールを掲げた。

1つ：「ビブス」を着用した係員の指示に従う事

2つ：お互いに思いやりの気持ちを持つ事

3つ：自分勝手な振る舞いは控え、他人に協力をする事

4つ：弱者（乳幼児・障害者・高齢者）には、より一層目配り気配り心配りをする事

5つ：気分が悪い時には、すぐに申し出る事

としている。

(3) まとめ

被災地である当地であっても、震災時の経験がない方も増えたことや風化されつつあることから、「楽しく防災訓練！」等と取り組む姿勢にも変化がみられてきた。一方で、未だ悲しみが癒されていない、ふとしたきっかけで涙が止まらない、等の方も多し。

多くの方の気持ちを汲みながら、より実践的で効果的な訓練を行うこと、一個人でも防災と減災を考えることを念頭に、前に進んでいきたい。



開催地より

直近で能登半島地震が発生したため、自主防災組織における災害に対する意識は高まっている。今回の講演を経て、災害時における避難所の在り方について考えさせられた。今後、本市では避難所におけるトイレの運用や若者を交えた防災教育について、自主防災組織と意見交換しながら考えていきたい。